

小中交流に関するアンケート

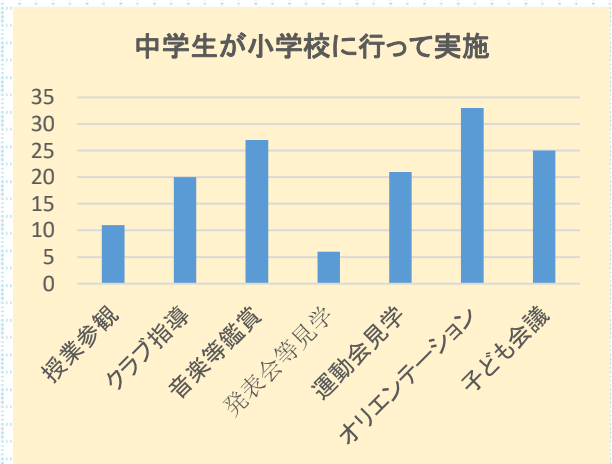
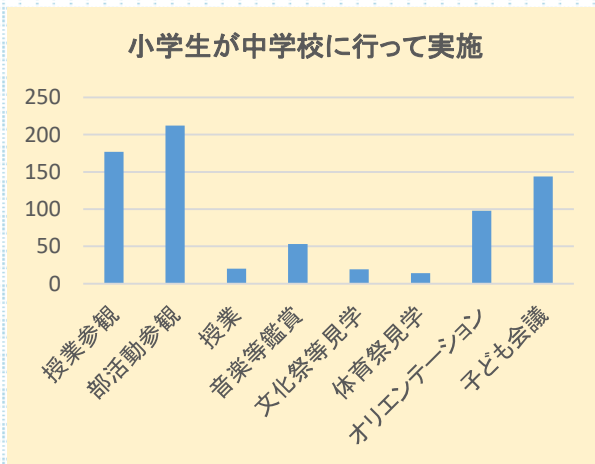
このアンケートは、「児童・生徒交流」及び教職員交流の取組の実施状況を把握し、情報を共有して今後の計画や実践に生かすために、数年ごとに小教研で実施しているものです。中学校ブロックで行われている小中学校の交流内容、成果の上がっている取組・特色ある活動等を集約するとともに、実施上の課題等を共有することで、より良い小中交流の有り方を考える一助にいただければ幸いです。

《実施》 令和元年10月4日(金)～31日(金) 《対象》 市内小学校、義務教育学校 《回答》 240校 (70.3%)



- 1 児童・生徒交流内容について、小学生が中学校に行き、実施(予定も含む)している内容は何ですか。
- 2 児童・生徒交流内容について、中学生が小学校に行き、実施(予定も含む)している内容は何ですか。
- 3 教職員交流内容について、小学校職員が中学校に行き、実施(予定も含む)している内容は何ですか。
- 4 教職員交流内容について、中学校職員が小学校に行き、実施(予定も含む)している内容は何ですか。
- 5 教育課程の作成や授業づくりに関して、小中ブロックを生かした取組があればお書きください。
- 6 児童生徒交流日、教職員交流等の小中交流について成果と思われることをお書きください。
- 7 児童生徒交流日、教職員交流等の小中交流について課題と思われることをお書きください。
- 8 その他(ご意見、お気づきの点)をお書きください。

児童・生徒の交流

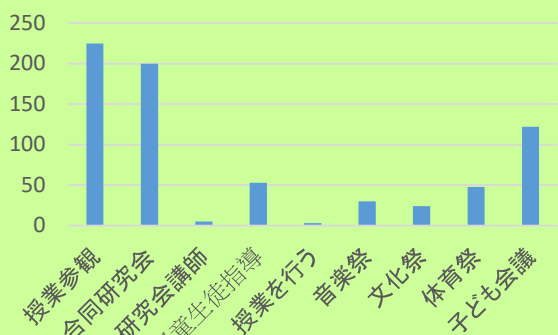


【その他】

- ・部活動体験 ・生徒会から学校紹介・ラジオ体操交流 ・鼓笛隊児童の吹奏楽部練習参加
- ・中学校陸上部生徒による小学生市体育大会選手への陸上競技指導
- ・夏休みスポーツ教室 ・市水泳大会選手の水泳練習 ・区の音楽祭に参加する学級が中学校で発表
- ・中学校区・家庭・地域協働事業スポーツ交流会 ・ブロック独自の取組として子どもサミット
- ・俳句づくりの会 ・合唱コンクールの練習の様子 ・地域清掃
- ・個別支援学級交流会、個別支援学級学習発表会マラソン大会(一部児童参加) ・体育祭(リレー)参加
- ・ブロックとしてのあいさつ運動のスローガンを決め、あいさつ運動の取組を紹介し合う
- ・運動会の際に特設される音楽隊にご指導いただいている ・6年個別支援学級児童の中学校訪問
- ・ブロック校の小学6年生が中学1年生と合唱交流会を開催 ・共に地域の方と交流しながら学習すること
- ・食の交流(10月の土曜授業参観後、いっしょにお弁当を食べて交流)
- ・街の教育座談会 ・たてわり活動、たてわり給食
- ・生徒会役員選挙立会演説会参加および模擬投票
- ・学校保健委員会 ・小中合同部活動 ・小学生入部
- ・音楽クラブ、吹奏楽部合同演奏

教職員の交流

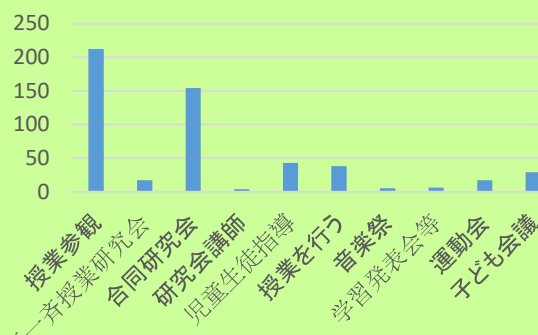
小学校職員が中学校へ



【その他】

- ・研修会 ・学校保健委員会
- ・夏季研修会(スポーツ交流会も含む)
- ・児童生徒交流日に引率教員が授業を参観
- ・子ども会議は担当教員のみ参加している。”
- ・合同人権研修 ・学地連の会合
- ・地区懇談会 ・卒業式、入学式の参列 ・面接練習
- ・懇親会。ブロック児童支援、生徒指導専任会”
- ・カリキュラム作成委員会”
- ・委員会、部活見学 ・担当教科別交流会
- ・主幹教諭会議
- ・教務主任会 ・カリキュラム作成

中学校職員が小学校へ



【その他】

- ・英語指導 ・職業体験 ・人権研修会
- ・6学年担任との情報共有
- ・6年懇談会にて、中学校生活等を説明
- ・学級編成等児童引継ぎ伝達
- ・朝会講話 ・ブロック児童支援、生徒指導専任会
- ・学校保健委員会 ・地区懇談会
- ・卒業式練習 ・学校運営協議会
- ・重点研への参加 ・〇〇まつり職員ブース出店
- ・運動会ボランティア引率
- ・個別支援級の保護者向け進路説明会
- ・合同研修会懇談会

教育課程の作成や授業づくりに関して、小中ブロックを生かした取組

- ・ 問題発見、問題解決の資質能力を育てるというブロックの方向性を定めた研究
- ・ 同じブロックの小学校内での学習成果の交流による、相手、目的意識の設定
- ・ 中学校ブロックの職員全員で育成すべき資質・能力について話し合い、教育課程の中に位置付けた
- ・ 目指す子ども像の共有
- ・ 小中合同で、中期目標の一部を共通化した
- ・ 授業参観を通して、「育てたい子ども像」実現のための手立てを話し合っている
- ・ 資質能力について、ブロックの教職員で話し合いました。その後、ブロックの教務主任が集まり、まとめ、更に、ブロックの校長で育成したい資質能力をまとめました。現在、ブロックの教育目標策定に向けて、同じ手順で進めているところ
- ・ 作成した「ぐるぐる」を見合い、授業を通して検証している
- ・ 年間4回の推進会議を開催して、中学校ブロックで9年間で育む力の作成、共有を図っている
- ・ 年間3回の授業参観後に、ブロック内で育成を目指す資質・能力について教科ごとに情報共有している
- ・ 年3回の小中連絡会(教務主任会)で、それぞれの学校が特色を活かしたカリ作りについて、情報交換・共有をしている。また、今年度は教職員交流で、中学校の授業を参観した後に、ブロック合同での研修会を実施した。そこで、ESD/SDGs についての研修を行い、ブロック全体での共通認識を深めた
- ・ 年2回の小中合同授業研究会
- ・ 中学校ブロックで小中一貫授業研究会を行って、9年間を見通した教育課程編成の一助としている
- ・ 中ブロックで教育過程全体通じて教科等横断的に育成を目指す資質・能力の育成に向け、教科や領域が担う資質・能力を
- ・ 授業参観や合同研究会などで集まった際に、教科部会に分かれてカリキュラムや教科の系統性についての話をしている
- ・ 組織を2部会にしている。教育課程推進部会では、学状分析を行った。特別支援部会では、個別支援計画の様式を検討
- ・ 人権教育は、ブロックで年間計画を作成
- ・ 人権の研究を主体とした、授業研究会夏の合同研修会
- ・ 夏休み期間中に小中合同で教科ごとに教育課程についての話し合いを行った
- ・ 夏の教育課程の後、ブロックの職員で集まり、道徳・総合的な学習・特別活動について教育課程について共有。また、合同で人権研修をしている

- ・ 英語について 中学校の先生に授業をしていただき、日々の授業に活かせるように研修を開催しました
- ・ カリキュラムを教科で分担し、作成することで負担軽減を図っている
- ・ 2校の小学校の重点研究が算数科なので、お互いの研究会に参加して授業力を高めている
- ・ 1小1中のブロックなので、ブロック交流会の他、交流委員会を立ち上げて教育課程部と児童生徒指導部の2部会での話し合いもしている
- ・ 1.ブロック共通の学校教育目標2.共通の3つの育成したい資質・能力の設定3.学び合いを生かした学習指導4.中学校ブロックの児童・生徒指導のスタンダードの作成
- ・ 小学校体育科にハンドボールの導入
- ・ 理科室の約束の共通掲示物
- ・ 学校生活全般にわたる約束について共通のスタンダードを作成し、毎年見直しと改善を図っている
- ・ 学校運営協議会やブロック内会議等を生かし、小中ブロックで育てたい子ども像を共有している

児童生徒交流日、教職員交流等の小中交流について成果と思われること

- ・ 六年生が中学校に行ってから心構えや見通しがつく
- ・ 中学校に行った児童についての情報などを共有することができる
- ・ 明らかにいわゆる中1ギャップと言われた壁は低くなっている。
- ・ 忙しい中だが、話し合いの機会をもつことで児童生徒理解や学区の様子について、学習について分かり合える
- ・ 部活動体験は、実際に活動ができるので、児童らも中学校生活のイメージをもちやすく、大変有意義である
- ・ 部活の見学が体験型だとよりわかりやすい
- ・ 中学生のがんばっている姿を見ることができて、小学生にもよい刺激になったり、進学への安心感につながったりしている。
- ・ 吹奏楽部による音楽発表では、なじみのある曲に児童が喜び、互いに音楽を楽しむことができた。進学に向けての不安感の軽減、意識の向上につながっている。情報交換を密にとることができる風土がつけられている。
- ・ 小学生が安心して中学校へ進学できている。児童生徒指導や特別支援教育について共通理解ができ、継続した支援ができています。
- ・ 授業や部活動の見学は、児童にとって大変良い経験となっている。また、中学生が「いじめ」について話をしてくれることは、抑止に効果的である。
- ・ 合唱コンクールの練習や部活見学をすることで、中学への期待や憧れをもつことができた。
- ・ 合唱コンクールの練習の見学のおかげで、卒業式の歌に対する思いや姿勢が大きく変わった。
- ・ 教職員間の交流では、教科や領域ごとに連携が図れてよかった。
- ・ 特に教職員が異校種における授業を参観することは、自校の授業内容の改善に役立っている。
- ・ 同じゴールを目指した児童生徒への指導観の共有。地域で児童生徒を育てていくという意識の醸成。”
- ・ 人権研修を合同で行い、意見交換をしたことで、視野が広がった
- ・ 少しずつ中学校の先生方の意識が良い方向に変わってきていることを感じる
- ・ 児童、生徒のよさや課題の共有が図れた。連携が図れた。授業研究会を通して、授業改善が図れた。育む力の共有、確認が図れた。
- ・ 「小中学校の違いは、それぞれの学校事情から生まれてくる当然のもの」と職員の理解度が少し進んだ。”互いの文化や業務について理解が深まる
- ・ 回数は少ないが、交流を続けることにより、少しずつ顔の見える関係が構築されてきた。一番は児童生徒も教職同志も仲良くなったこと。楽しいです！
- ・ 6年が、英語を中学校の英語の先生に教えてもらうことで、中学校進学への不安感が薄らぐ
- ・ 小学校の重点研のテーマをコンセプトと関連付けることで、小学校の授業の質の高まりを感じる。中学校でも、協働学習を多く取り入れ、主体的な学びの様子が多く見られるようになってきた。
- ・ 児童が進学に期待と希望をもつこと。地域の幼保の先生も参加し、地域で育てる連携を図ったこと。
- ・ 児童が安心して中学校に進学し、落ち着いて学習・生活に取り組めるようになってきたこと

児童生徒交流日、教職員交流等の小中交流について課題と思われること

- ・ 予定を合わせること
 - ・ 目的を明確にして、同じ視点で話をする。
 - ・ 日常の学校行事や授業の予定等を考えると交流する時間をこれ以上増やすのは難しい。
 - ・ 小学校と中学校の年間行事予定や日々の時程等、リズムが違うことが多いので、何か合同で行うときの日程調整がとても難しい。年度途中で、効果的だと取り入れたいことがあっても、中学校は授業の計画が教科担任制で組まれているために動かすことはなかなかできず、次年度以降に先送りしなければならないということが、今まででも多く経験してきた。
 - ・ 児童生徒交流日は、行事への取組を主体とした授業が多い。教職員交流は、日程調整が難しく、参加できない日がある。
 - ・ 本校は2つの中学校に進学する。そのためブロックの中学校への関わりが強い反面、ブロック以外の中学校への関わりが一部の職員に限られてしまう現状があります。
 - ・ 本ブロックは1中4小のため、なかなか全職員での交流は難しく、連携を深めることが難しいこと。
 - ・ 忙しく回数が重ねられない。中学校と小学校の違いを共有していかなければならない。
 - ・ 中学校には小学校の教職員が行って見学する機会が毎年あるが、中学校から小学校には来ていただける機会が少なく感じる。
 - ・ 中学校と小学校の温度差を感じてしまうことがある。
 - ・ 打ち合わせ等の時間が持てないこと
 - ・ 小中合同で行う授業研究会については、中学校と小学校の教員間で、研究会の持ち方などの共通理解が必要だと考える。
 - ・ 小学校の児童や教師が中学校で授業参観を行うことで、中学生が授業に集中できなくなってしまうことがある。
 - ・ 授業内容と授業方法がかなり違うので、参考になるものとならないものとの差がある。児童生徒指導においても、発達段階の差があるので、同じようにはいかない。
-
- ・ 交流後の、教職員による成果と課題の共有。共有によって、よりよい交流に向けての検討となる。継続可能で、かつ、マンネリ化を打破する必要がある。
 - ・ 教職員交流について、互いの学校の違いについて知るにはよいと思うが、基本的な文化や考え方が違う中で、年1回程度の交流でどの程度意味のあるものになっているのか。
 - ・ 教育課程作成(情報交換)の場が少ない。
 - ・ 運動会前日準備と重なってしまう。金曜日以外の設定をお願いしたい。
 - ・ ブロック内中学校からの校長赴任で本当の意味での情報交換ができていない
 - ・ 10月の交流日の翌日が小学校の運動会となり、前日準備に支障がでる。本校は、3中学校に進学することから、交流日を変更することもままならない状況である。

その他

- ・ 日程が10月第3週金曜日だと思いますが、暑さ対策を考慮して、来年度はその週に運動会を実施しようと思います。日程はブロックごとに変更できるのでしょうか。
- ・ 中学校の英語担当教諭が小学校で授業を行う機会があると、早期の児童理解が図れ、小学校としてはAETがカバーできない授業の質を上げることができると思います
- ・ 児童生徒交流活動を指定地区外就学の希望先にと申し出る保護者が出てくる。現在就学しているブロックの中学校を基本とし、小学校区内に他ブロックの中学校進学校区がある場合、住所に従って交流活動に参加することを説明している
- ・ 今、中学校は全体的に落ち着きがあり、その分子どもたちの低年齢化で、小学校に多くの課題が下りてきている。中学校との連携が不可欠であると思うとともに、小学校と中学校の異職種で管理職だけでなく、教職員も交換勤務をしてお互いの文化の良さ、対応の違いのノウハウを研鑽しあうといいのではないかと
- ・ 現状の継続がとても大切
- ・ 継続は力なり。ブロックで持続可能な取組を続けることが大切だと思う
- ・ 学業地連とブロックの組み合わせが違うことで支障が出ている
- ・ ブロック毎の特色や事情もあるので、合同授業研究会は毎年行わなくてもよい。
- ・ AETが併設型の小中学校では、どちらの学校でも授業ができるような契約をしていただけると来年度以降のYICAの授業時間数増をうけると小学校としては助かります。現状では、中学校教諭が週2日、5・6年のクラスの授業にAET役として出前授業をしているが、来年度以降も継続できるとは限らないので。